

時を超えた質を求め、地域をつくる建築を

板橋力一サT

木造3階建て共同住宅の形

Studio for Smiling Space

Miyoko Takeda

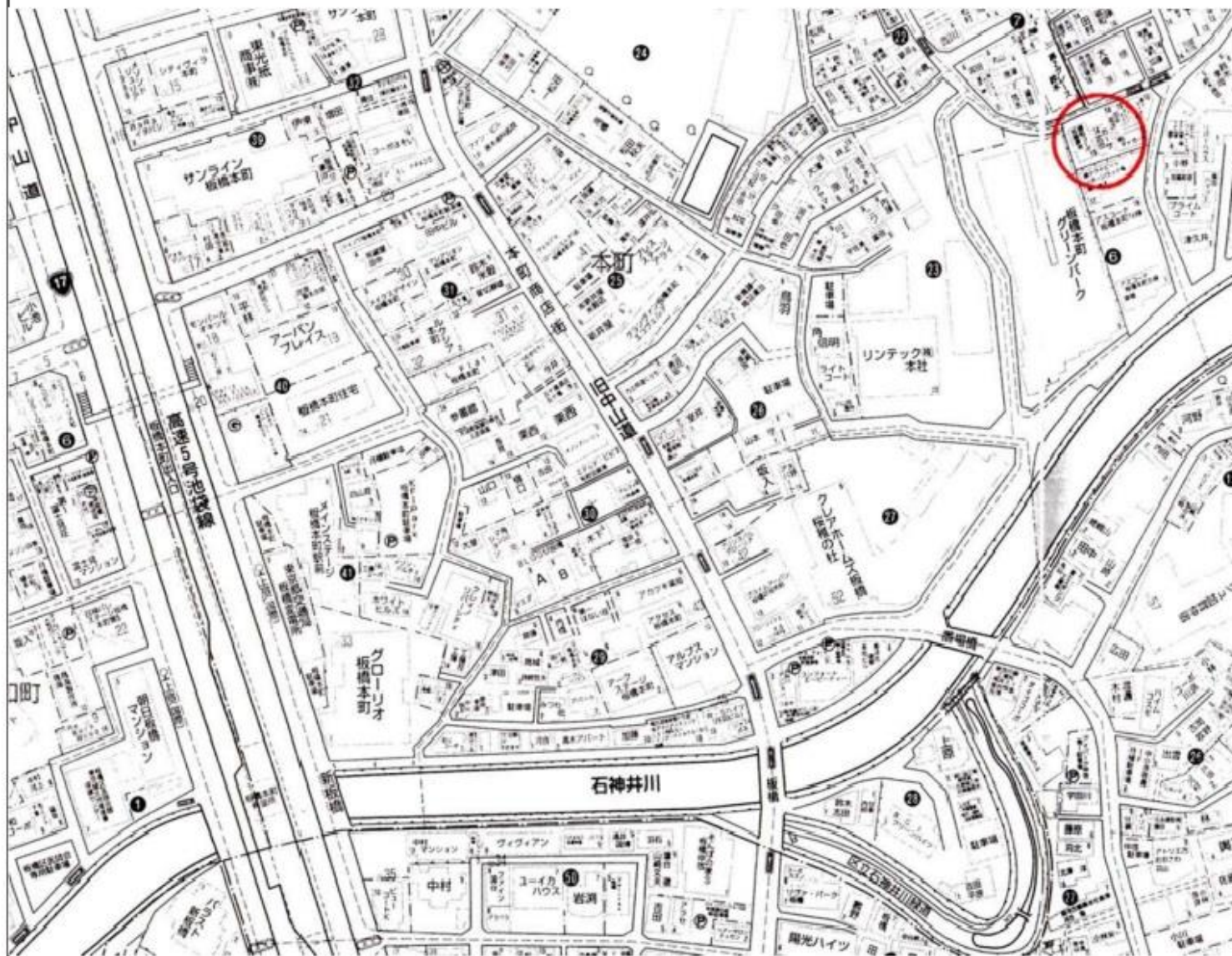
一級建築士事務所 環境建築研究室 微笑み空間工房 武田実代子

石神井川にかかる板橋から練馬方向を見える街区の向こう側の敷地。治水・工場移転と環境整備・道路整備が半世紀の間、進んでいる地域

大和町交差点・環七へ

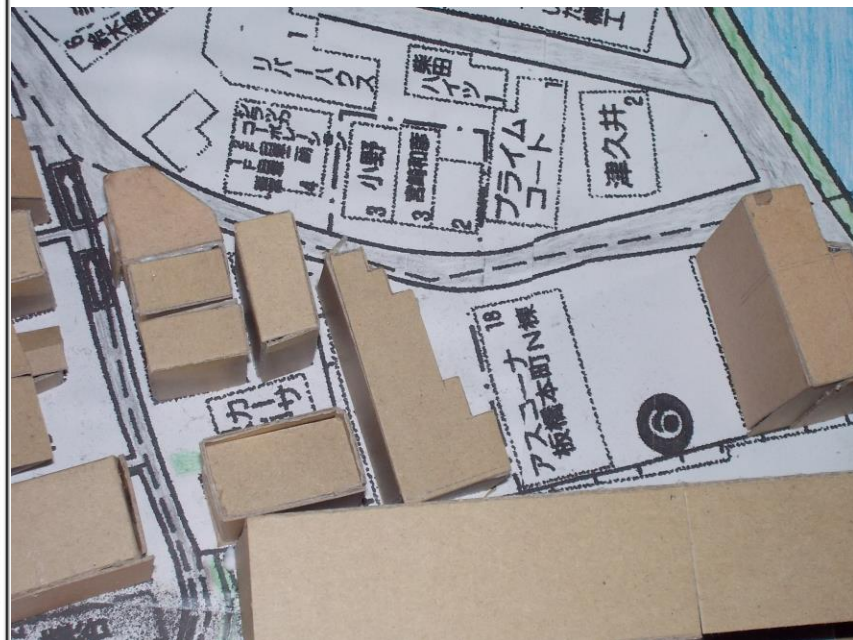
↑板橋本町駅へ(都営三田線) ↑板橋本町駅へ(都営三田線)

帝京高校へ ↑

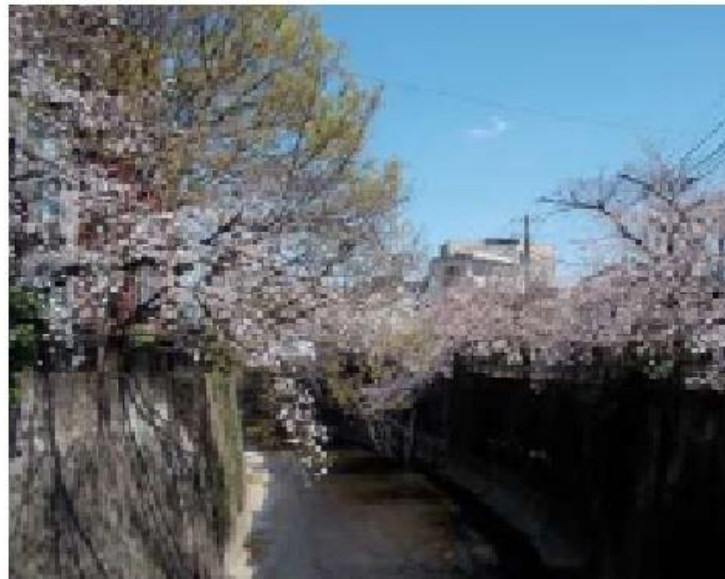


↓ 巣鴨・日本橋方向

↓ 板橋を渡り仲宿商店街・板橋区役所方向



緩やかに蛇行する川沿いの地形に合った道路と、利便性から生成された路地から変遷した直線的道路。公正に管理されている感じと、草の根的自主性とのバランスと、過渡的な軋轢→→→境界の課題。



旧中山道上、仲宿商店街を抜けて、石神井川にかかる板橋から敷地方向へ。



木造3階建て共同住宅の形:当初から幾何学的性質を意識せず、流域周辺の様々な形、街区内敷地形状と呼応して進めながら見出し得る。共につくる中で、既存の又は生まれてきている構造を強めて、すべてが生きたスペース、ポジティブ・スペースとなるように。



準防火地域：準耐火構造・60分耐火外壁で、戸建てのような3戸を重ねて木造屋内共同階段でつなぐフラットで、
屋内・屋外ともにコミュニティとプライバシーのバランスを重視。デコレーション装飾ではなくオーナメントによる全体性の強化。

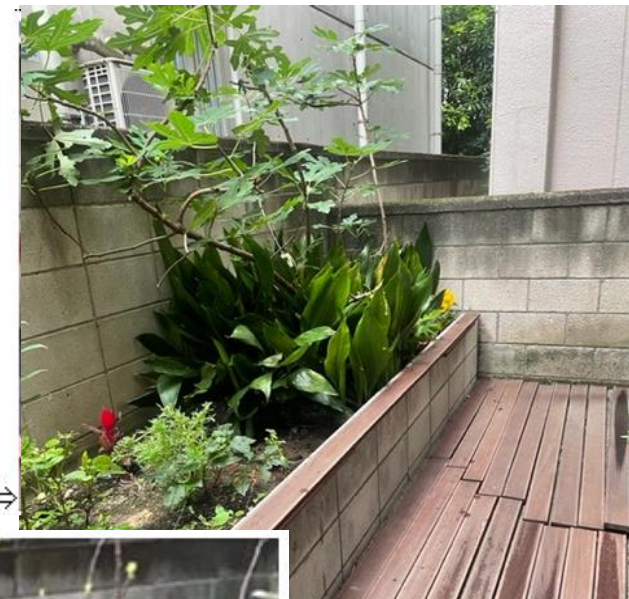
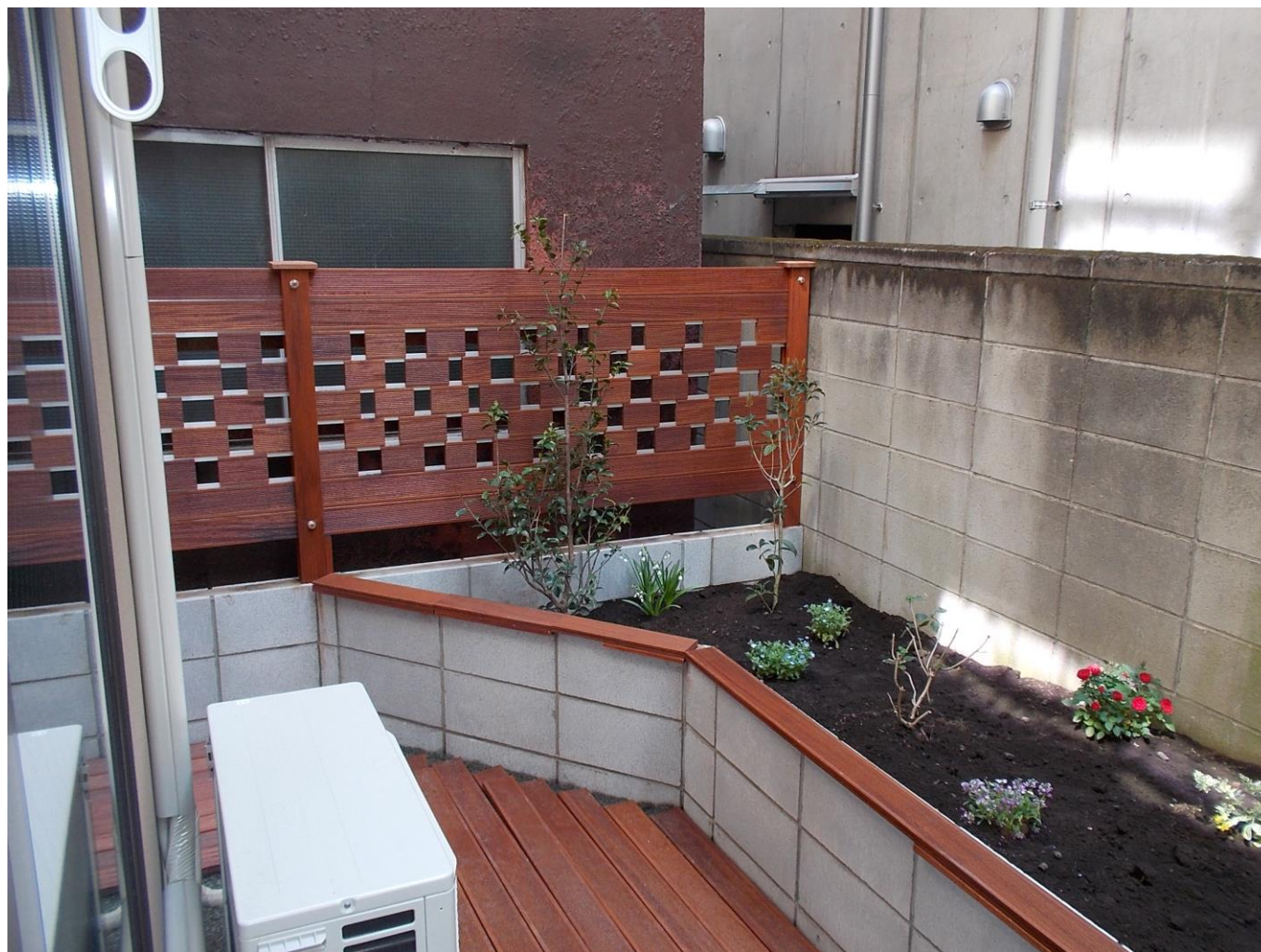


木造屋内共用階段から各住戸内へ:すべてのスペースに個性と構造的合理性のある断熱・防火窓を備える

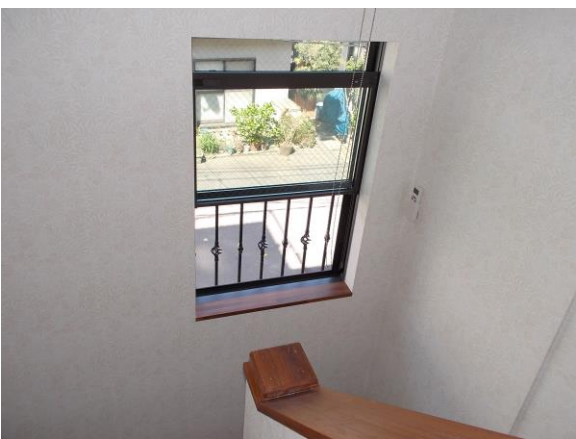
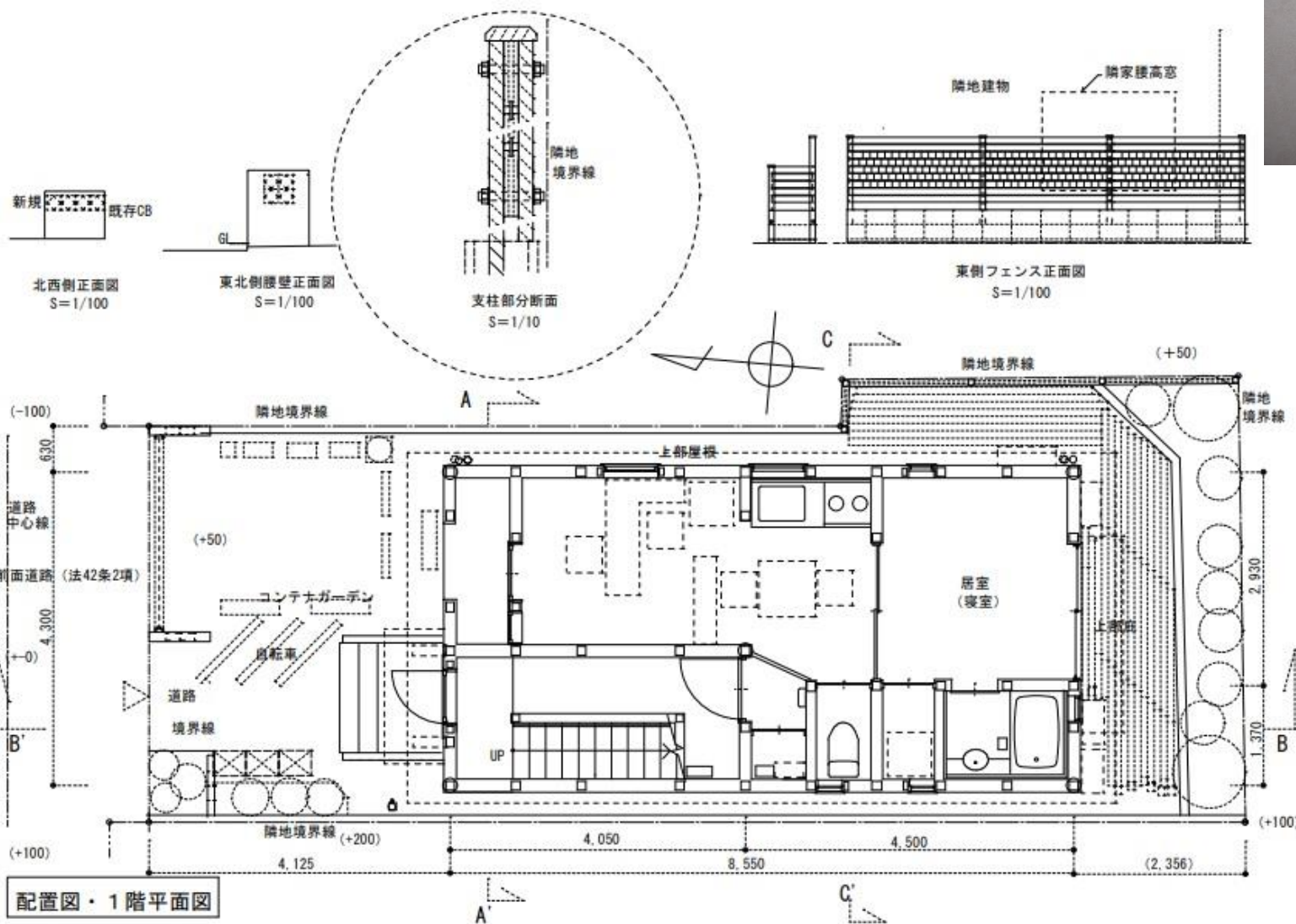


車よりも、暮らせる、地域の居住環境を重視。 屋外空間の豊かさから良き近隣関係を。

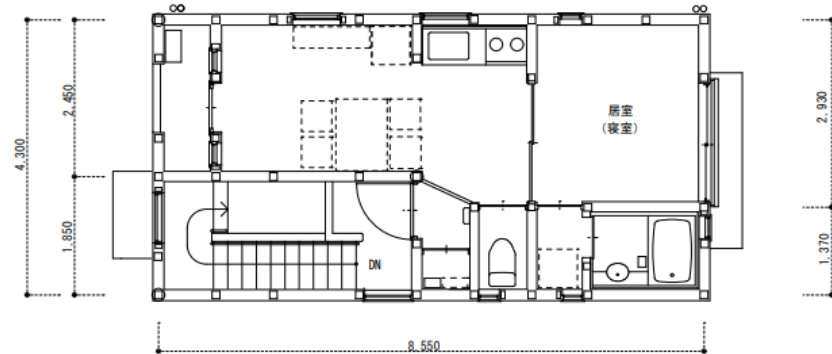
- ひと昔までは、隙間があれば隣地境界線も関係なく出てくるところだったが、境界のあり方を考えて、ビルマチークのデッキ材などを余す材なく用いて、コミュニティとプライバシーのバランスを具現化。
- コロナ禍1年目のただ中、ウッドショック発生。米松などの構造材供給が不安定に。急遽、計画変更して、国産材(西川ズギ)をメインに、2014年から試みていた新しい流通ルートで用いることができて、地産地消で、SDG'sに貢献。



無理なく暮らせて、愛着を持てる空間の質と、
住み続けられる都市住宅で、
地域をつくり、時を超えた質を未来へつなぐように。



3階平面図



2階平面図

